

高知県安全教育プログラム に基づく防災教育の推進



高知県土佐市立蓮池小学校
校長 吉門 直子



高知県の防災教育の取組 ～南海トラフ地震に備えて～

学校安全対策課の設置

東日本大震災を踏まえ、南海トラフ地震対策を、学校施設の耐震化等のハード整備と防災教育等のソフト対策を一体的に推進するため、平成24年4月に教育委員会内に学校安全対策課を設置。

□ 教職員研修

教職員の防災教育力、防災対応力の向上を目的に平成17年度から毎年県内3カ所（東部、中部、西部）で「**防災教育研修会**」を開催。（学校悉皆：各学校1名必ず参加）

□ 学校安全担当教員の資質向上

□ 防災教育の質的向上

【**高知県安全教育プログラム**】に基づく防災教育の確実な実施。

【高知県学校安全総合支援事業（実践的防災教育推進事業）】市町村をモデル地域として指定。拠点校を中心に地域と連携した多様な実践をモデル地域内の学校で共有。

発表会等で他の地域や県全体に広げることで県全体の取組の向上を図る。

□ 学校防災マニュアルの改善

【**学校防災アドバイザーの派遣**】

県内の大学等の有識者を学校に派遣し、各学校の避難場所、避難経路、避難方法等について、専門的視点から助言を行うことを通して学校防災マニュアルの見直しや避難訓練の改善に資する。

□ 各種教材・資料の作成

「土佐の防災学習プログラム」「防災学習 南海トラフ地震に備えちよき」「高知県学校防災マニュアル作成の手引き」「高知県安全教育プログラム」「命を守る防災BOOK」「高校生のための防災ハンドブック」

南海トラフ地震で一人の犠牲も出さない！

全ての子供たちが、自ら判断・行動し、自分の命を守りきる力を身に付けることをめざす。

高知県教員育成指標



教諭 F 組織貢献力 ⑮危機管理・安全管理

【新規採用期（0～1年）】

学校安全に関する基礎的な知識を身に付け、危機を察知、迅速かつ適切に対応することができる。

【若年前期（2～4年）】

危機管理の重要性や自身の役割を理解し、児童生徒の安全管理のために迅速かつ適切に対応することができる。

【若年後期（5～9年）】

安全対策等の手法を身に付け、場面や状況に応じて、迅速かつ適切に対応することができる。

【中堅期（10年～）】

安全や教育効果に配慮した環境を整備するとともに、危機の早期発見、早期対応に向け、適切な対応策を講じることができる。

【発展期（20年～）】

危機の早期発見、早期対応に率先して取り組むとともに、学校における危機管理体制を点検し、改善につなぐことができる。

高知県教員育成指標



校長 D リスクマネジメント

⑫児童生徒・教職員の健康・安全管理を適切に行うことができる。

⑬突発的な事態や災害時に迅速かつ的確な判断や指示をすることができる。

⑭学校で生じるであろう種々の危機事象を想定し、それに備える組織づくりをすることができる。

⑮校内外の連絡、情報共有体制を整えることができる。

校長 E 地域等マネジメント

⑯地域等にある人的・物的資源等を活用し、「チーム学校」を構築することができる。

⑰地域の人々や関係機関等に積極的に情報発信し、地域と協働した教育活動を推進することができる。

⑱校種間、学校間連携の体制を整えることができる。

防災教育の課題～東日本大震災以前～

- 防災教育の時間確保が課題
 - カリキュラムへの位置づけは各学校の工夫に任されている
- 防災教育の内容に課題
 - 避難訓練＝防災教育という実態。多様な取組を行う学校は少ない



- ◇指導内容の明確化
- ◇効果的な指導資料
- ◇指導方法の情報共有 が必要

高知県安全教育プログラムの策定

高知県安全教育プログラム

◆高知県安全教育プログラムは、地震・津波をはじめとして、交通事故や犯罪被害、気象災害などの様々な危険から子どもたちを守るための安全教育を、プログラムに基づき確実に実施することで各学校における安全教育の質的向上を図ることを目的として作成した「教職員の指導用資料」です。

◆この指導用資料により、教職員一人一人が、子どもたちをとりまく様々な危険を再認識するとともに、子どもたちを危険から守るために、どのような力を身に付けさせるべきかを考え、実践する必要があります。

総論 (平成25年3月策定)

子どもの命を守る安全教育とは

子どもたちが生涯にわたり自らの安全を確保するための基礎的な素養や、社会の安全に貢献することができる資質や能力を育てるものであり、子どもたちの命を守るうえで欠かすことのできない最も重要な教育活動です。

安全教育を通して身に付けさせたい力

- ・自分の命を守りきる力
- ・知識を備え正しく判断する力
- ・地域社会に貢献する心（態度）

各論

安全教育の3領域

震災編

(災害安全)
(平成25年3月策定)

気象災害編

(災害安全)
(平成26年2月策定)

交通安全編

(平成26年2月策定)

生活安全編

(防犯含む)
(平成26年2月策定)

全ての子どもたちに身に付けさせる基本的指導内容

- 【震災編】「助かる人・助ける人になるために」
(指導10項目)
- 【気象災害編】「知る・備える・行動する」
- 【交通安全編】「被害者にならない・加害者にもならない(4つの力)」
- 【生活安全編】「身の回りにある危険を予測し、自ら回避する」

プログラムを活用した授業の実施

- ◆具体的実践例（展開例）を活用した安全教育の実施
- ◆防災については、**小・中学校は各学年5時間以上、高等学校では3時間以上**を各学校の年間指導計画に位置付け、全ての子どもたちに必要な知識や技能を身に付けさせる**防災の授業**を実施
- ◆防災学習以外の安全学習については、各教科の授業等の中で「基本的指導内容」を基にした指導を実施

防災教育の徹底

- 防災の授業

→ 小中学校は各学年で5時間以上

高等学校は各学年で3時間以上

学級活動（ホームルーム活動）
総合的な学習の時間等の活用

- 避難訓練の実施

→ 年間3回以上 ショート訓練を含む

学校安全計画に位置付けた計画的な実施

「高知県安全教育プログラム」に基づく 安全教育・安全管理の徹底

災害安全・交通安全・生活安全の三領域の取組

- 安全に関する資質・能力を明確化した「安全教育全体計画」「学校安全計画」の作成・実施
- 学校安全担当教員等が中核となって活動を実施
- 保護者、地域及び関係機関等との連携
- 防災教育の確実な実施（3～5時間）
- 危機管理マニュアルの見直し、充実を図る機会の設定
年度当初の可能な限り早期に全教職員でマニュアルを共有
- 訓練の課題を踏まえたマニュアルの見直し

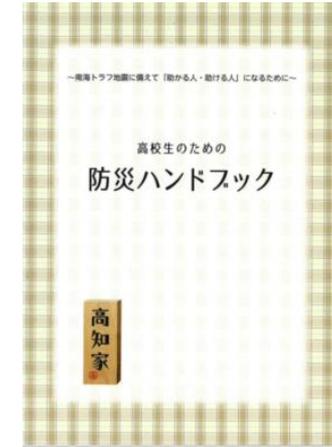
全児童生徒に配付



副読本（小学校）



副読本（中学校）



ハンドブック（高等学校）

南海トラフ地震に備えちよき



- 防災の授業で使用するスライド、動画等の資料
- 東日本大震災の教訓を踏まえて平成24年3月作成
- 気象災害編を追記し平成28年3月改訂

学校防災マニュアル作成の手引き（震災編）



- 各学校で作成している「学校防災マニュアル」を見直し、より実効性を高めるための資料として、具体的な留意点を記載して平成21年作成
- 東日本大震災の教訓を踏まえて平成26年改訂

指導内容はあくまで基本的な内容です。学校種や地域の特徴（地理的条件、ビル等の有無、人口規模等）に応じてさらに加える内容を検討する必要があります。

助かる人・助ける人になるために（指導10項目）

事前

備える

南海地震を正しく恐れ、ともに立ち向かう！

1 地域に起こる災害を知る

- 「想定を知る」
- 自分が住む地域に発生する危険
(揺れの強さや長さ、30cmの津波到達の時間、最大津波浸水深等の想定)
 - 過去の南海地震の規模と被害の状況
(自分の住む地域が過去に受けた被害等)

「助かるために知っておくこと」

- 津波は膝下くらいの高さでも動けなくなる
- 津波は繰り返し長い時間（6時間以上もある）押し寄せる
- 津波は川をさかのぼる（数kmも遡上した例もある）
- 揺れが小さくても津波が来ることもある

「想定以上のことも起こりうること」

- 想定や過去の経験にとらわれない

2 必ず助かるための知恵と備え

「必ず助かるために」

- 地域の津波避難場所を知っておく
- 登下校中や家からの避難方法（避難場所と経路・危険箇所等）
- 「それぞれが逃げる」家族との約束（集合場所も決めておく）
- 人が集まる場所では非常口を必ず確認しておく
- 海岸や河口付近に行くときは、まず高台への道を確認する
- 緊急地震速報等、防災に関する情報について知る

「今すぐしておくこと」

- 夜間の地震発生に備える
(枕元に靴や懐中電灯等の必要な物を置く、家具等が転倒・落下しない場所で寝る)
- 家具等の転倒・落下防止、ガラスの飛散防止等を行う
- 最小限の非常持ち出し品を準備する
- 家族との連絡方法（災害用伝言ダイヤル等）を確認しておく
- 水・食料等を備蓄しておく（最低3日分）

3 みんなで助かるための備え

「災害時に助ける人になるために知っておくこと」

- 地域の防災訓練への参加
- 防災倉庫の場所や中身の確認（バール等の資機材の使い方）
- 心肺蘇生法（AEDを含む）等の応急手当の技能の習得
- ボランティア活動への参加
- 学習したことの情報発信（地域や近隣校園へ）

発生時

命を守る

「ぐらっと」きた時！

揺れの後は！

4 揺れから自分を守る

- 「ぐらっと揺れたら大事な頭をまず守る」
- 揺れを感じたら（緊急地震速報を受信したら）頭を守る
 - 「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に身を寄せる

5 津波からの迅速な避難

「想定にとらわれず避難する」「最善を尽くして行動する」「率先避難を行う」

「揺れたら、とにかく急いで高台へ」

- 自分で判断して一番近くの高い場所へ避難する
- 沿岸地域では動けるくらいの揺れになったらすぐ避難を始める
- 強い揺れ、長く揺れたらすぐ避難する
- 避難したら警報が解除されるまで戻らない

6 いつ、どこにいても自分を守る

「一人の時でも必ず助かるために」

- 指示を待つことなく自分の判断で行動する（「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に身を寄せる）
- 屋外では、ブロック塀や建物の倒壊や落下物等、周囲の状況に特に注意する

7 二次災害への対応

「火災から逃げる」「動けるようになったら避難」

- 大声で知らせる
- 身を低くして煙に注意する
- 延焼するものない、十分な広さのある場所へ避難する
- 「土砂災害等への注意」
- 崖の上や下から離れ危険箇所には近づかない
- 前兆が見られたら避難する（避難勧告に注意）
- 川の様子（水量が変わる、水が濁る等）や山の様子（山鳴りやひび割れ、小石の落下等）に注意する
- 液状化、余震への注意

8 助ける人になるための行動

「自分でできる『助ける』行動」

- （津波、火災の危険がない場合）瓦礫の下にいる人を助ける手伝い、大人を呼びに行く等の自分にできる行動をする
- 可能な限り、初期消火、けが人の搬送、応急手当等を行う

事後

暮らしをとりもどす

ともに生きぬく！

9 みんなで生き延びるための知恵と技

「今、自分にできることを」

- あらゆる手段を活用して情報収集・伝達を行う
(災害用伝言ダイヤル等の活用)
- 避難生活を支える（ボランティア）
物資の仕分けや整理、運搬
避難所の清掃
情報の収集・伝達に関する活動
高齢者や障害者などの手伝い
小さい子の遊び相手
炊きだしの手伝い

10 地域社会の一員としての心構え

「命を守る地域の絆」

- 集団生活のルールを身に付ける
- 積極的に地域とのつながりを持つ
- 自分にできる役割を考え実行する
- 家屋の片付け等を手伝う

避難訓練の意義（防災教育の観点）

- ▶ なぜ訓練をするのか？
- ▶ 何から？なぜ逃げる必要があるのか。
- ▶ 何を備えるべきか？

大切なのは、訓練の意味を知らせておくこと！

訓練で見た児童生徒等の行動から課題を確認し次の学習課題を焦点化すること！

○自分の判断で行動できたか？

○教科等の学習で身につけた知識や技能が生かされたか？

自らの命を守るために必要な知識・技能
～訓練を通して自分の状況を確認する～

【趣旨】

平成28年11月に黒潮町において行われた『世界津波の日』高校生サミットin黒潮」で採択された「黒潮宣言」の趣旨に則り、南海トラフ地震に備える県内高校生の主体的な防災活動を支援し、高校生防災リーダーの育成を推進することを目的として開催する。



「高知県高校生津波サミット」に係る一連の取組

自ら学び、行動し、発信する

学校単位での取組

実践校 10校

実践校への訪問
支援・助言

- ◆アクションプランの作成・実施
- ◆防災リーダー組織の構築
(防災委員会・防災クラブ等)
- ◆継続的な取組・仕組みづくり
(授業・生徒会・部活動等)

活動経費
2万円

高校生防災リーダーの育成 (実践校のうちからリーダーを募る)

個人でも
エントリー可

個人での取組

実践委員 20名

個別の支援

防災士資格取得経費
8,000円/人

- ◆自己目標シートの作成・実施
- ◆高校生防災リーダーに関する取組への参加
- ◆防災について、主体的・探究的に学ぶ

学習会



・黒潮宣言の趣旨や高知県高校生津波サミットの一連の取組について理解

・地震・津波を含む自然災害についての基本的な知識を学ぶことにより、実践校及び実践委員のアクションプランや目標の実現に活かす

・取組の交流などを通じて、高校生(学校)間のつながりを広げる

より学び
サミットへ

「高知県高校生津波サミット」



対象: 県内全ての高等学校及び特別支援学校

・実践委員のファシリテータによるグループ協議

・高知県の防災産業を学ぶ

・津波・大雨・土砂災害等の災害のメカニズムを学ぶ

・被災体験者や有識者の講演

・アクションプラン等の成果発表

防災活動の充実

社会づくりに貢献

- ・自主防災会(地域)と連携した防災の取組
- ・地域の防災活動や訓練に積極的に参加
- ・被災地でのボランティア活動

生涯に渡って防災に関わる人材の育成
高知県の未来を牽引する人材の育成

実践委員の育成に関する取組

被災地訪問

- ・被災地の現状から津波等の自然災害の実態を知り、防災に取り組む必要性を学ぶ
- ・他県高校生とのネットワークの構築

『世界津波の日』高校生サミットへの参加

- ・国内・海外高校生とのネットワークの構築
- ・コミュニケーション力、自己発信力の向上

防災に関する取組

- ・アクションプランの実現に向けて、防災に関する内容を学ぶ。
- ・学校や地域、家庭で実行及び情報発信
- ・防災士養成講座の受講

【期待する効果】

- ◆生涯にわたって防災を社会で活かすことができる。
- ・職場や地域の防災リーダーになり、地域の防災活動へ参加。
- ・防災教育で身に付けた資質能力を社会(地域)で活かす。

高知県高校生津波サミット実践校

H29 実践校16校 (県立11, 特支1, 市立1, 私立3)

H30 実践校20校 (県立14, 特支1, 市立1, 私立4)

R1 実践校16校 (県立11, 市立1, 私立4)

R2~3 実践校9校 実践委員24名

- 実践校の取組の活性化
防災を視点とした探求的な学び
地域と連携した防災活動
- 新たに実践委員(個人)を募集
防災リーダーとして育成
(防災士など)



気象災害時の安全(知る・備える・行動する)

指導内容はあくまで基本的な内容です。どこにいてもどのような気象災害にも対応できるように、平野部や山間部、沿岸部を問わず、全ての学校で指導する必要があります。また、学校種や地域の特徴(気候特性、地理的条件)に応じて、さらに内容を加える必要があります。

知る・備える

行動する

大雨・台風による災害

土砂災害

突風・雷による災害

大雪による災害

「大雨をもたらす気象現象」

- ・発達した積乱雲により、「局地的大雨」となる場合がある
- ・「台風」は、激しい暴風雨をもたらす(長時間続く場合もある)

「大雨や台風による災害」

- ・河川の急な増水、河川の氾濫による洪水、道路や家屋の浸水
- ・台風による高波、高潮、暴風

「高知県で過去に発生した主な災害」

- ・過去に高知県で起こった台風や豪雨等の災害を知る

「日頃からの備え」

- ・非常用品の準備(懐中電灯と電池、ラジオ、食料、水等の確保)
- ・避難場所を家族全員で確認しておく

「大雨や台風、地震による土砂災害」

- ・土砂災害(がけ崩れ、地すべり、土石流)の特徴
- ・自分が住む地域に発生する危険(土砂災害危険箇所マップで確認)

「高知県で過去に発生した主な土砂災害」

- ・過去に高知県で起こった土砂災害を知る

「竜巻や雷の発生」

- ・発達した積乱雲の下で「竜巻等の激しい突風」や「雷」が発生する

「竜巻による災害」

- ・竜巻等の激しい突風は、季節を問わず全国各地で発生する
- ・激しい突風により建物の倒壊、屋根瓦やテント等の飛散、電柱や樹木・遊具等の倒壊、飛来物の衝突等の危険がある

「雷による災害」

- ・雷は周りより高い所に落ちやすい(周囲が開けた場所は危険)
- ・木や電柱等落雷を受けた物体から放電を受けることがある(側撃雷)

「大雪による災害」

- ・高知県での積雪による危険
- ・積雪、路面の凍結等による交通事故の発生
- ・斜面に積もった雪が滑り落ちる雪崩の危険

「災害の前兆を知る」

- ・河川の増水に注意し、すぐに水辺から離れる(ダム of 放流警報、川の状態の異変に注意)
- ・平地では晴れていても、上流の大雨による急な増水もある

「情報の収集と適切な避難」

- ・注意報・警報・特別警報の意味を正しく理解し、適切に避難する
- ・避難指示(警戒レベル4)があった場合は、慌てず速やかに避難する(忘れ物をして戻らない)外へ出ることが危険な場合は、家の2階等少しでも安全な場所へ避難する
- ・台風が遠くても、高波や高潮に備え、海での活動は控える

「土砂災害から身を守る」

- ・土砂災害の前兆現象がみられたら、すぐに避難する(近所や役場への通報)
- ・雨量や大雨警報、土砂災害警戒情報に注意し、早めに安全な場所へ避難する

「情報の収集と適切な避難」

- ・屋外活動の前に、天気予報や雷注意報、ナウキャスト等の気象情報を確認する

「竜巻等の突風から身を守る」

- ・竜巻注意情報が発表された場合は空の様子に注意し、積乱雲が近づくと兆しがあればすぐに避難する
- ・頑丈な建物の中に避難する(できない場合は、物陰やくぼみに身を伏せる)
- ・家の中心部に近い窓のない部屋に移動し、窓や壁から離れる(窓、雨戸、カーテンを閉め、頑丈な机の下に入り頭と首を守る)

「雷から身を守る」

- ・雷鳴が聞こえたら、建物や自動車等の中へすぐに避難する
- ・木や電柱からは4m以上離れる(側撃雷の恐れがある)
- ・避難する場所がない場合は、姿勢を低くする

「大雪から身を守る」

- ・気象情報を活用して積雪や凍結を予見し、転倒しにくい歩き方や車の動きに注意する
- ・急な斜面、雪崩が発生しやすい場所には近づかない
- ・雪崩の前兆を知り、速やかに避難する

大雨・雷・竜巻の時の行動は？

2 小学校 4年生(全学年)					
天降・雷・竜巻のときの行動は？					
指導する学年	4年(全学年)	指導場面	特別活動(学級活動)	指導する時数	1時間
本時のねらい	大雨や雷、竜巻等の気象災害から、自分の命を守るための方法について理解し、安全に行動しようとする意欲をもつ。				
使用する資料	文部科学省DVD教材「安全に通学しよう～自分で身を守る、みんなで守る～」(平成25年3月)(小学校に配布)		基本的な指導内容 大雨・台風による災害、土砂災害、突風・雷による災害「知る・備える」行動する		
学習内容・活動			指導上の留意点		
事前指導(朝の会や午後の会等) 大雨や雷、竜巻等の気象災害について知る。			○気象災害の事例を紹介し、日常生活でも気を付けるように注意喚起する。		
導入 1. 学習課題を知る。  			○大雨や雷、竜巻の写真(「安全に通学しよう」自然災害資料編より)を提示し、気象災害のイメージをもたせるとともに、自分の経験や知識と結び付けて学習の動機付けを図る。 ○自分の命を自分で守ることの大切さを伝える。		
大雨・雷・竜巻のとき、どのような行動をとればよいのだろう。					
展開 2. 「大雨のとき」のVTR(2分10秒)を視聴し、危険箇所や注意点を確認する。 ・土砂災害の前兆一山やがけに近づかない。 ・地下街や地下道、アンダーパスには近づかない。 ・川や用水路に近づかない。			○被害状況の写真等でVTRを一旦停止し、説明を加えたりどのような危険があるかを予想させたりしながら、危険予測能力を養っていく。 ○土砂災害発生危険箇所や地下道、川や用水路等、注意しなくてはならない所を通学路や校区にあてはめて考えさせる。		
3. 「雷のとき」のVTR(47秒)を視聴し、適切な避難の仕方について話し合う。 ・頑丈な建物に避難する。 ・姿勢を低くする。			○直撃雷を受けると、80%が命を落としてしまうことを伝える。 ○VTRには出てこないが、樹木の下で雨宿りするると雷撃の危険性があることを伝える。(P.51参照)		
4. 「竜巻のとき」のVTR(1分25秒)を視聴し、適切な避難の仕方について話し合う。 ・かべの厚い頑丈な建物に避難する。 ・一番下の階の部屋に避難する。 ・窓から離れたところで頭をかかえ姿勢を低くする。			○高知県でも竜巻が多く発生していることや被害の状況等を伝える。(資料P.50参照) ○竜巻を見続けることは絶対にしないこと、すぐに避難することを強調する。		
5. 大雨や雷、竜巻は積乱雲(入道雲)がもたらすことを知り、積乱雲が近づくサインがあ			○積乱雲の写真を提示し、積乱雲を見たことはないか、近づくサインを感じたことはないか		

ればすぐに安全な場所に避難する必要性を知る。

- ・真っ黒い雲が近づいてきた。
- ・雷の音が聞こえてきた。
- ・急に冷たい風が吹いてきた。

家とめ

6. 学習のまとめをし、大雨・雷・竜巻が起こったときに実践することや気を付けたいことを発表する。

○学習を振り返り、今後の自己の行動目標を立てさせる。4年生以上は、下の読み物資料(例)を読む時間を設け、学習の定着を図る。

大雨・雷・竜巻のときは、すぐに危険な場所から離れ、安全な場所に避難する。

読み物資料(例)



評価

大雨や雷、竜巻からの適切な身の守り方を理解している。

気象庁が発行しているリーフレット等に、具体的な身の守り方について記載されているので、授業に活用できます。



「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」(気象庁リーフレット 平成25年2月)より抜粋
(<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/index.html>)

事後指導(朝の会や午後の会等)

大雨・雷・竜巻に直面した後、自己の行動目標(身の守り方)の達成状況を振り返る。

○気象災害から自分で身を守ることの大切さを改めて考えさせ、自己評価させる。

<指導上の留意点>

- ・この学習は4年生の展開例として紹介しているが、全学年において繰り返し指導することにより、日常に起こりうる気象災害に備えて大雨・雷・竜巻からの身の守り方を、児童が確実に身に付けることが大切である。5年生については、理科の学習と関連させながら、さらに詳しく指導する(P.24参照)。また、本展開は、積乱雲が急発達しやすい時期でもある夏に入る前(4～6月)や夏休み前に実施することが望ましい。
- ・低学年の学習では、「安全に通学しよう～自分で身を守る、みんなで守る～」(文部科学省DVD教材 平成25年3月)の「災害安全(防災)1～3年」のVTRチャプターを、高学年の学習では、「災害安全(防災)4～6年」のVTRチャプターを使用するとよい。

<資料紹介>

- ・以下の気象庁発行リーフレットに、詳しく解説している。リーフレットは、気象庁HPからダウンロードできる。 (<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/index.html>)
 『急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう!』(気象庁 平成25年2月)
 『急な大雨・雷・竜巻～ナウキャストの利用と防災～』(気象庁 平成25年6月)

関連する教科・行事等

5年理科:「天気の変化」
5年学級活動:「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう」

安全教育の目標～安全に関する資質・能力～

「『生きる力』を育む学校での安全教育」より

安全教育の目標

日常生活全般における安全確保のために必要な事項を実践的に理解し、自他の生命尊重を基礎として、生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるように、**安全に関する資質・能力**を育成する。

(知識・技能)

○様々な自然災害や事件・事故等の危険性、安全で安心な社会づくりの意義を理解し、安全な生活を実現するために必要な知識や技能を身に付けていること。

(思考力・判断力・表現力等)

○自らの安全の状況を適切に評価するとともに、必要な情報を収集し、安全な生活を実現するために何が必要かを考え、適切に意思決定し、行動するために必要な力を身に付けていること。

(学びに向かう力・人間性等)

○安全に関する様々な課題に関心を持ち、主体的に自他の安全な生活を実現しようとしたり、安全で安心な社会づくりに貢献しようとしたりする態度を身に付けていること。

安全教育の目標～各段階における安全教育の目標～

【幼稚園】

日常生活の場面で、危険な場所、危険な遊び方などが分かり、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付けることができるようにする。また、災害時などの行動の仕方については、教職員や保護者の指示に従い行動できるようにするとともに、危険な状況を発見したときには教職員や保護者など近くの大人に伝えることができるようにする。

【小学校】

安全に行動することの大切さや、「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する様々な危険の要因や事故等の防止について理解し、日常生活における安全の状況を判断し進んで安全な行動ができるようにするとともに、周りの人の安全にも配慮できるようにする。また、簡単な応急手当ができるようにする。

【中学校】

地域の安全上の課題を踏まえ、交通事故や犯罪等の実情、災害発生のメカニズムの基礎や様々な地域の災害事例、日常の備えや災害時の助け合いの大切さを理解し、日常生活における危険を予測し自他の安全のために主体的に行動できるようにするとともに、地域の安全にも貢献できるようにする。また、心肺蘇生等の応急手当ができるようにする。

【高等学校】

安全で安心な社会づくりの意義や、地域の自然環境の特色と自然災害の種類、過去に生じた規模や頻度等、我が国の様々な安全上の課題を理解し、自他の安全状況を適切に評価し安全な生活を実現するために適切に意思決定し行動できるようにするとともに、地域社会の一員として自らの責任ある行動や地域の安全活動への積極的な参加等、安全で安心な社会づくりに貢献できるようにする。

【特別支援学校及び特別支援学級】

児童生徒等の障害の状態や特性及び発達^の程度等、さらに地域の実態等に応じて、安全に関する資質・能力を育成することを目指す。

新たな資料の作成 ～安全教育の充実のために～

- 高知県安全教育プログラム策定から7年。年間3回以上の避難訓練とともに、防災授業も一定定着。
- ◆安全教育の更なる質的向上を図るためには、児童生徒にどのような安全に関する資質・能力を育成するのか1年間のゴールイメージを明確化し、年間指導計画に位置付けることが重要。

安全教育参考資料



「高知県安全教育プログラム」に基づく
安全教育の充実のために



令和3年6月
高知県教育委員会

～新資料のポイント～

- 基本的指導事項をもとに育成を目指す安全に関する資質・能力を発達段階ごとに整理
- 安全教育全体計画・学校安全計画を例示
- 単元構成による指導計画モデルを例示
- 安全教育の評価に関する考え方を整理
- 学習指導要領における「防災を含む安全に関する教育」の内容を掲載

安全教育参考資料「高知県安全教育プログラム」に基づく安全教育の充実のために；
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/312301/2021060100347.html>

【気象災害・その他の災害】

安全（気象災害・その他の災害）

「知る・備える」「行動する」

発達段階

特別支援学校(※)

小学校低学年

小学校中学年

小学校高学年

災害の種類	発達段階	特別支援学校(※)		
		小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
大雨・台風による災害	知る・備える	<ul style="list-style-type: none"> 大雨や台風の時に、安全に登下校するための注意点を知っている。(1人で登下校しない。一列で歩く。川や水路、マンホールには近づかない。かさは前が見えるように持つなど) 	<ul style="list-style-type: none"> 通学路において、大雨による浸水や増水等の危険箇所となり得る場所と状況を知っている。(マンホール、用水路や側溝、アンダーパス等) 高潮の起こる仕組みや被害を知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達した積乱雲が、局地的大雨をもたらすことがあることを知っている。 雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化することであることを理解している。 ハザードマップ等で地域の災害リスクや避難場所・避難経路、連絡方法等を、家族全員で確認している。
	行動する	<ul style="list-style-type: none"> 大雨や台風の時の登下校の注意点に気を付けて、登下校することができる。 周囲の様子に気を付けながら歩くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 雨の降り方によって、川が短時間で増水することがあることを知っている。 大雨の時には、河川の増水に注意し、すぐに水辺から離れることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 大雨や洪水の警報・注意報が発表されている時や川の異変を感じた時は、河川に近づかず、安全な場所に避難することができる。 避難する際に、より安全に避難できる方法(リュックやスニーカー等)を身に着けている。(両手を使える状態、長靴は)
土砂災害	知る・備える	<ul style="list-style-type: none"> 大雨等の際には、土砂災害が起こる場合があり、がけなどが危険になることを知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 通学路の危険箇所と避難場所を家族で確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害(がけ崩れ、地すべり、土石流)の特徴や前兆現象を知っている。
	行動する	<ul style="list-style-type: none"> 大雨等の際に、がけなどから離れて、安全に登下校することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害の危険性があるときは、危険箇所に近づかない。 	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害の前兆現象に気付いたら、家族や近所及び役場に知らせ、すぐに避難することができる。 避難の際の連絡方法を家族で話し合っている。
突風・雷による災害	知る・備える	<ul style="list-style-type: none"> 雷や竜巻から身を守る方法を知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 雷の特徴について知っている。(雷は周りより高い所に落ちやすい、木や電柱等からの側撃雷を受けることがある) 	<ul style="list-style-type: none"> 積乱雲は、「竜巻等の激しい突風」や「雷」を伴うことがあることを知っており、その危険性を理解している。
	行動する	<ul style="list-style-type: none"> 雷鳴が聞こえたり竜巻が見えたりしたら、頑丈な建物の中にすぐに避難することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 雷鳴が聞こえたり竜巻が見えたりしたら、頑丈な建物の中にすぐに避難することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 積乱雲が近づく兆しがあれば、危険な場所から離れ、頑丈な建物に避難することができる。

【指導計画モデル】 小学校 6 学年 「災害安全」

安全に関する資質・能力を身に付けさせる指導計画モデル

災害安全（震災） 小学校 第 6 学年 防災教育年間指導計画（例） - 総合的な学習の時間を中心に -



総合的な学習の時間	<p>単元名 命を守るための備え（届けよう私たちの思い）（32時間）</p> <p>単元目標 地域の防災上の課題を見つけることで、命の大切さや環境について一人ひとりが考え、地域のために何ができるか主体的に学び、実践しようとする態度を養う。</p>				
<p>【導入】9月（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震や津波のメカニズムや影響、過去の災害の様子について知り、防災学習への意欲を高める。 <p>【課題設定】9月（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災学習の3つの柱に沿って、テーマを設定する。 	<p>【情報収集】10月（4時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> フィールドワークや調べ学習を行い、地域の避難場所や危険箇所等の情報収集を行う。 	<p>【整理・分析】10月（8時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災マップを作成する。 各グループに分かれ、マップ作りの手順に沿って作業を行う。 事前にマップに載せる情報の整理を行う。 	<p>【課題設定】11月（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の命を守るために、地域のために何ができるか考え、それを達成するために個人で考えをもち、グループで活動について話し合い、目標を考える。 <p>【情報収集】12～1月（8時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べ学習をしたり、地域の防災・安全対策に詳しい方の話を聞いたりして、情報収集を行う。 	<p>【まとめ・発信】2月（4時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 内容について各グループから報告し、全体で共有する。 他学年への発表を通して、地域防災の重要性について発信を行う。 2月の参観日で、完成した防災マップを掲示し、保護者への発信も行う。 	<p>【振り返り】3月（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分達の活動を振り返り、記録用紙にまとめる。 これまで学習した内容や活動を下級生が継続できるように助言する。 中学生では、どんな地域防災が必要になるか、話し合いを行う。

<p>特別活動</p> <p>学級活動</p> <p>【津波から逃げる 4月】 - 津波避難の3原則を知り、どこにおいても一人でも津波からの避難方法を考える。（高知県安全教育プログラム）</p> <p>【これが大切！我が家の備え 10月】 - 南海トラフ地震に備え、今からできることを考える。（高知県安全教育プログラム）</p> <p>●【避難生活を考えよう 11月】 - 避難生活の様子を知り、自分でできることを考える。（高知県安全教育プログラム）</p>	<p>学校行事</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>【1学期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●避難訓練【地震津波を想定した訓練】 ●心臓野生活講習会 ●新体力テスト ●避難訓練【休み時間】 ●生活委員会による報告（学校生活） </div> <div style="width: 35%;"> <p>【2学期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●避難訓練【シェイクアウト参加】 ●校区防災訓練参加【高台避難：津波防災の日】 ●避難訓練【火災時】 ●自立学習【地震津波訓練】 ●運動会 ●避難訓練【下校時】 ●生活・保護委員会の取組報告（地震・感染症） </div> <div style="width: 30%;"> <p>【3学期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●避難訓練【消防中】 ●生活委員会による取組の報告（津波） ●6年生による総合的な学習の時間のまとめの報告 </div> </div>
---	---

防災教育の実践〔避難訓練と事前・事後学習〕

1. 条件にあった訓練の方法の実施

これまでの避難訓練は、全ての災害に対して同様な避難訓練を実施している実態も見られるが、想定する災害の種類によって避難行動が異なるため、目的を明確化した訓練が必要。

- ・災害発生時に児童生徒が的確に判断し行動できるようにするためには、必要な知識を身に付けておくことが重要。
- ・児童生徒に「何のための訓練か、何から避難するのか」避難訓練の意義を明確にしておくこと。
- ・教職員は、この訓練で何を確かめるのか、訓練の目的を明確にし共通理解を図っておくこと。

こうした観点で、事前学習として学級活動や教科の学習を見直すとともに、教職員の事前の打ち合わせを計画的に実施する。

2. 訓練が終了した後に、訓練を振り返って課題を明確化し改善を図る

・訓練後、その訓練が目的を果たせていたか、防災上の課題や教職員・児童の行動を振り返り、課題を整理しマニュアルを改善する。

・児童生徒が、自らの判断で行動できたか、災害課題に応じて適切な行動をとることができたか等、事後指導の中で児童生徒が自分たちの課題を振り返りさらなる学習課題を整理する。

3. 課題や改善点を整理し学校防災マニュアルや学校安全計画を改善！

管理職のリーダーシップのもと、学校安全担当教員を中心とした防災体制の強化。

事前学習

訓練

事後学習・改善



○教科・学級活動
地域の災害課題を知る



○学級活動
「地震が発生したら」
○朝の会、帰りの会、SH



○緊急地震速報の活用



○下校時の地震発生 of 想定

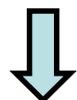


○訓練後の振りかえり学習
○児童生徒等の防災意識・実践力向上につなげる

高知県学校防災マニュアル作成の手引き (震災編)



- 各学校のマニュアル作成のための考え方・留意点
- あらゆる場面を想定
(休み時間・登下校時・スクールバス乗車時・引き渡し…etc)
- 組織体制 (指揮命令者・参集等)
- 実効性のあるマニュアル
- 計画的な防災体制の確立



最新の知見・情報に基づいているか？

訓練や研修を通して
随時見直しが必要！

今後の安全（防災）教育

▶ 育てたい資質・能力のイメージと目標設定

- ・ 何ができるようになるか
- ・ 発達の段階を考慮し目標を設定

▶ 指導内容と各学年における取り扱いの整理

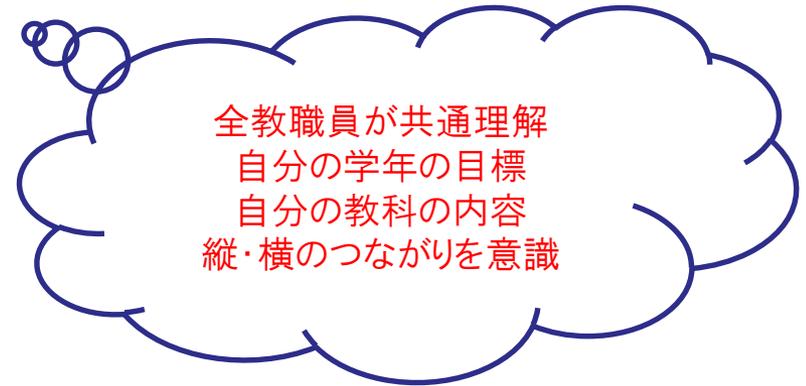
- ・ 教科等における安全に関する内容を整理
- ・ 各学年での指導内容の選定と指導計画の作成
- ・ マトリックスにより視覚化（学校安全計画への位置づけ）
- ・ 学年間のつながりやバランスを検討

▶ 実践

- ・ 単元構成による授業実践
- ・ 総合的な学習の時間や学級活動等、各時間のねらいや特性を生かした指導の工夫
- ・ 多様な資源を活用した指導方法の工夫

▶ 検証と指導計画の改善

- ・ 効果の検証と指導方法、指導計画の見直し
- ・ 学校安全計画の改善



効果の検証→手法の改善

全ての子供たちが、自ら判断・行動し自分の命を守りきる力を身に付けることをめざす。

